# 米国野外博物館を訪ねて ❶

江戸東京たてもの園では、海外の野外博物館との連携を深める一環として、また、経年劣化の進んだ復元建造物・丸二商店の緊急修繕工事にあたり、木造建造物の修復方針を検討するため、他施設の事例の調査を進めています。平成27年度は、米国の野外博物館3施設を、学芸員の松井かおる・阿部由紀洋が調査しました。2回に分けて、たてもの園だよりで調査の内容をご紹介します。

## ルイジアナ州立大学 田園生活博物館（写真❶❷）

アメリカ南部の都市、ニュー・オリンズから車で1時間30分、ルイジアナ州の州都バトンルージュの中心地にこの博物館は位置します。19世紀半ばにこの地でプランテーションを経営し、1920年代から長年の間広大な庭園を手がけたバーデン家の人々が、ルイジアナ州立大学の文化人類学・地理学研究チームとともに重ねてきた研究を基礎としています。1972年、同大学がバーデン家の敷地、建造物、庭園、さまざまな生活資料などを同家から寄贈され、1981年に田園生活博物館として開館しました。25エーカー（約10ヘクタール）の広大な敷地に32棟の建造物を移築し、室内も当時の様子を再現することで、19世紀のルイジアナの庶民生活（奴隷小屋、監督者の家、厨房棟等）、18世紀から19世紀にかけてルイジアナに移住してきたヨーロッパ人の生活などを、紹介しています。

年に数回、延べ20日間程度行われるイベント時には、19世紀の衣装を着たスタッフが各施設でさまざまなワークショップを行います。木工のワークショップに参加した人々がボランティアで屋根葺きを手伝うこともあるそうです。

❶ 19世紀のプランテーションを再現した一画の奴隷小屋。この他、病棟、小学校、鍛冶屋、監督者の家、雑貨屋、厨房棟等が配置されている。

❷ 博物館の敷地内に墓地があり、博物館設立に寄与したバーデン家の人々もここに眠る。

この博物館はLouisiana State University Foundation Development という非営利団体が管理・運営を行っており、入場料やミュージアムショップの売り上げ、博物館での結婚式・披露宴利用による収入といった財源で、運営費のほとんどをカバーしているそうです。

また、温暖な気候のため、アメリカのほとんどの野外博物館が休館する1月から3月の寒冷期も開館しています。併設のウインドラッシュガーデンは80年の歳月を経た野趣あふれる庭園で、ルイジアナ州立大学による農学研究の拠点となっています。

## コロニアル・ウィリアムズバーグ（写真❸）

アメリカ合衆国東部、バージニア州の東部、ウィリアムズバーグは、イギリス植民地時代の一時期（1699年から1780年）の州都でした。20世紀初頭、牧師として赴任したW.A.R.グッドウィンは、ジョン・ロックフェラー2世らと共同開発し、植民地時代のウィリアムズバーグを再現すべく、当時の建築物を修復、再建して歴史地区を作り上げ、1928年に公開しました。長さ1マイル（約1600m）、幅約0・5マイル（800m）の敷地に600棟あまりの歴史的建造物が建ち並んでおり、非営利のコロニアル・ウィリアムズバーグ財団がそのすべてを管理・運営しています。議事堂など財団が再建・移築にあたった88棟を中心に、当時の服装をした人々による建物ツアー、さまざまな体験プログラム（煉瓦工、大工、桶屋、鍛冶屋等）、独立戦争の戦いを再現するパフォーマンスなどをチケット制で行っています。このほか、クオリティの高い収蔵品レプリカの販売、歴史地区のレストラン、オフィシャルホテル、スパの経営、結婚式・披露宴の施設利用対応も同財団が行っています。

当時の製法で煉瓦を成型、乾燥、焼成する場を敷地内に持ち、当時の衣装や部屋のカーテンなどは少し離れた場所に設置されているコスチューム・デザイン・センターで制作されます。この施設があるゾーンにはジョン・D・ロックフェラーJr.図書館、財団学芸員の研究室、美術館の収蔵庫、建造物の修復・保存部門の研究室もあります。研究室の扉にはペンキの成分表が貼られており、調査研究に基づく修復が行われていることを実感しました。

❸ イギリス植民地時代のバージニア州の州都としてのウィリアムズバーグを象徴する州議会議事堂。1705 年創建の建造物を再現して 1930 年代に建てられた。

## ヘンリー・フォード博物館 グリーン・フィールド・ビレッジ（写真❹❺）

アメリカ中西部ミズーリ州デトロイトの西隣ディアボーンにある「ヘンリー・フォード博物館」は、エジソン協会が管理・運営するアメリカ国内でも大規模な博物館複合施設です。アメリカの歴史を語る大小さまざまな標本資料（ヘンリー・フォードが収集した生活道具、ライト兄弟が発明した飛行機のモデル、国内外の歴代の自動車等）が展示されている屋内型展示施設に、83の歴史的建造物を展示している野外博物館（グリーン・フィールド・ビレッジ）が併設されています。同館では最近市内で発見され、収集されたローザ・パークスバス（黒人公民権運動の発端となった事件の舞台となったバス）も修復のうえ、展示するなど、フォードのコレクションを維持しつつ、そのコンセプトの延長になる資料を現在も集め続けています。

屋内施設の隣にはヘンリー・フォードが夫人と社交ダンスを楽しむために建てた、2階が舞踏室になっている「ラベットホール」があり、現在は結婚式の披露宴やイベント貸会場に使われています。エジソン協会は非営利団体で、博物館の入場料やグッズの収入のほか、館内での結婚式や一般のイベント利用による収入を運営費用にあて、フォード社からの補助金は受けていないそうです（設立当初からの基金は運営費にあてています）。今回訪問したいずれの野外博物館も結婚式・披露宴を、収入源として積極的に受け入れていました。

❹ 冬季閉館中の敷地内を、T型フォードで見学。クラシックカーの乗り心地を体験することでタイムスリップ感覚が増幅される。

❺ ライト兄弟が経営していた自転車店のディスプレイ。住居も家具や季節に合わせたインテリアが展示される。

ホールの先に野外博物館「グリーン・フィールド・ビレッジ」の入口があり、7区画に分かれる80エーカー（約32ヘクタール）の敷地にライト兄弟が経営していた自転車店、ヘンリー・フォードの生家、エジソンが電球を発明した研究室などが建ち並び、来館者はT型フォード、馬車、機関車、外輪船で敷地内を移動することができます。

今回は、各施設の概要や運営についてご紹介しました。次号では各館に建造物の修復についてインタビューした調査成果をご紹介いたします。さらに詳細は『東京都江戸東京博物館紀要（第7号）』に掲載の予定です。

（学芸員　松井かおる）